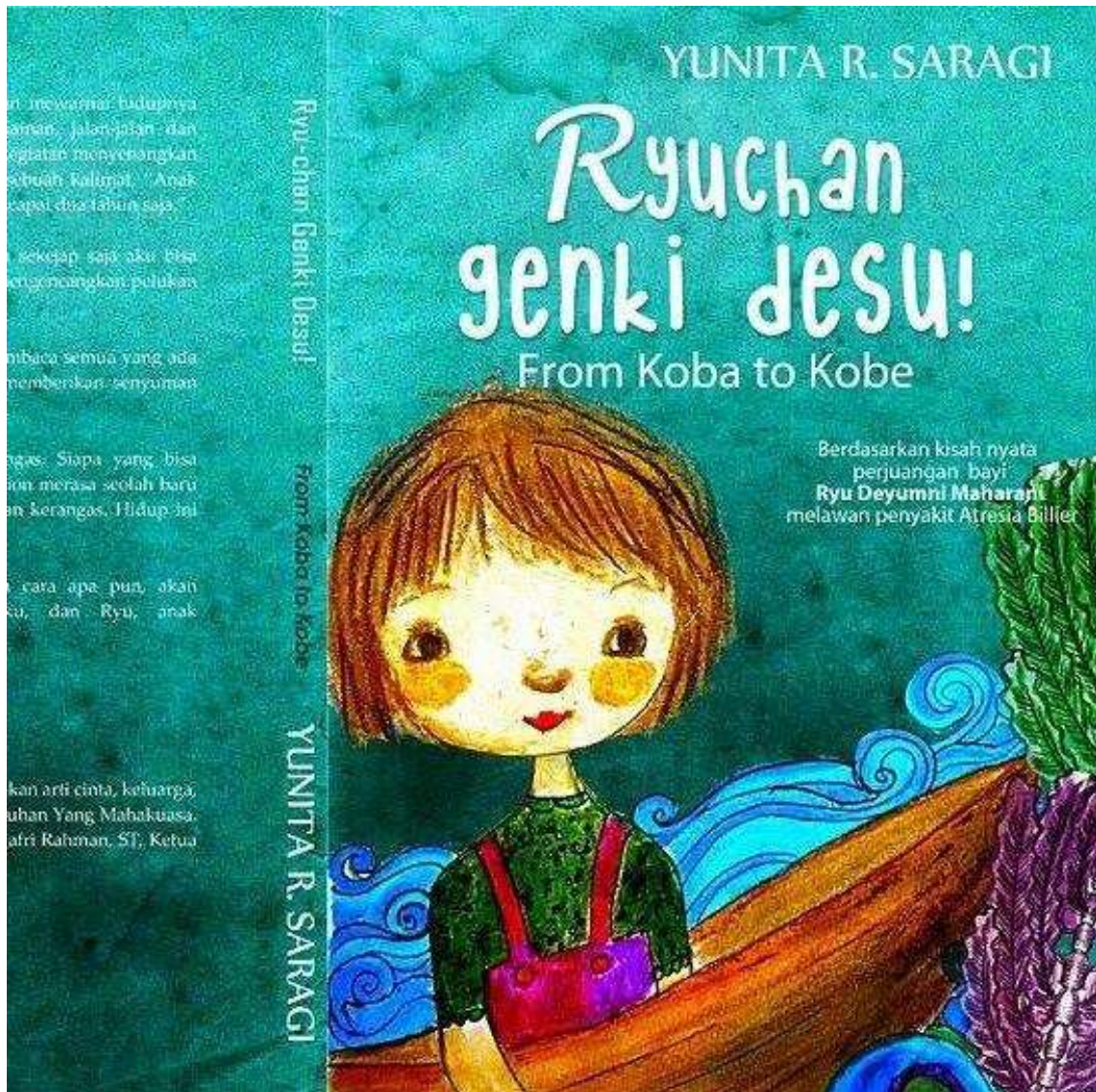


Ryuchan genki desu! の一部が日本語に翻訳されました。
エピローグの所に日本（KIFMEC 病院）での治療の様子が掲載されています。翻訳は Helda さんにより行われました。



作者 YUNITA R. SARAGI

Ryuchan genkidesu.

- P1 プロローグ (序章)
- P2 海辺に咲く花のように強く生きようと約束する
- P8 幸せな11月
- P20 リオンさんの小さな家族の治療の決まり事
- P31 リュウちゃんの体に潜んでいる両親が聞いたこともない病気を紹介する
- P43 葛西手術を待つ
- P57 葛西手術をする
- P64 10億ルピアの治療費
- P67 我が子のためなら私たちは死んでもいい
- P71 絶え間ない祈り
- P77 リュウちゃんには薬の注射だけでなく幸せの注射も必要だ
- P86 リュウちゃんが医学以外の治療も受ける
- P91 嫌な胃管チューブ
- P95 リュウちゃんの血便
- P102 食道静脈瘤
- P108 肝移植の情報は夜空に一番光っている星のよう
- P114 ASKES 健康保険から BPJS 健康保険への切替
- P118 リュウちゃんのお父さんの手記
- P126 ジャカルタでのお正月 (ラマダン明け)
- P132 試練はまだ終わっていない
- P136 一縷の望みを抱く
- P144 ナイファラ財団
- P147 リュウちゃんとマスメディア
- P150 ヒタムプティトランス7の番組にインタビューを受け募金を募る
- P153 リュウちゃん!目を覚ませ、あと一歩だ
- P156 天からお金が降ってくる?
- P161 インドネシアのコバから日本の神戸へ
- P168 今が手術の時だ
- P173 ユニアルさんが一人で過ごすことになる
- P179 リオンさんの体調が悪くなる
- P183 エピローグ

1. ヘンニさん【故ガレノ君のお母さん】の紹介で田中先生と出会うことができた。
2. 2014年11月27日、リュウちゃんがお父さんのリオンさんお母さんのユニアルさんと共に、現地の医師と看護師に同行され、来日した。
3. 関西空港には、病院の代表者あやこさんとスティーブさん、インドネシア学生協会の代表とソフィーさん、また初めて会う支援者の方々も出迎えに来てくれた。思いがけないことだった。
4. 病院に到着すると、お医者さんたちを始め看護師たち、スタッフたち、インドネシア国籍の通訳のヘルダさんに歓迎され、また日本のテレビ局も取材に来ており、とても感動した。テレビ局によるとリュウちゃんが日本で治療している間、彼らは取材し続けるそうだ。
5. そのすぐ後、リュウちゃんはインドネシアのサルジト病院のチーム、インドネシア領

事館のチームと病院で面会した。

6. このような奇跡的な出来事が次々と起こり、リオンさん家族はこれは神様からのプレゼントだと思った。
7. ようやくリュウちゃんの手術の日がやってきた。朝 8 時に看護師がリュウちゃんを手術室に迎えに来た。ユニアルさんはリュウちゃんと離れたくない気持ちでいっぱいだった。なぜならこれがリュウちゃんを見る最後の機会かもしれないという不安を抱えていたからだ。
ユニアルさんはリュウちゃんの肝臓移植手術がうまくいくよう、泣きながら祈っていた。
8. その後ドナーのリオンさんも手術室に向かったので、ユニアルさんは自分が一人ぼっちになったような気がしてとても悲しくなった。病院の中には看護師やスタッフもいるが、ユニアルさんはとても寂しく感じた。看護師達はユニアルさんの気持ちを察してグーグル翻訳を使い、やりとりしてくれた。皆、病室に入りユニアルさんを慰め、インドネシア語で書いたメッセージをプレゼントしてくれた。メッセージには「心配しないであなたは一人じゃないです。私たちはここにあります。そして、皆はリュウちゃんとリオンさんの世話をします。」と書かれていた。その後、ムスリム教の主婦たちも会いに来てくれた。ユニアルさんの心配事を少しでも減らすために三宮へ連れて行き、リュウちゃんとリオンさんが術後に必要なものを買うのに付き添ってくれた。
9. 三宮から病院へ戻った後は気持ちが少し楽になった。夜の 9 時頃ユニアルさんは看護師に呼ばれた。緊張でドキドキしながら付いていくと、5 階の手術室へ向かったので手術結果がいい知らせなのか、悪い知らせなのかと思いながら付いていった。
10. 急いで手術室へ向かう途中で田中先生と出会った。田中先生は手術室近くの廊下の椅子に座り、片手にはベリオンドリンク（インドネシアまで知られている有名なドリンク）を持ちもう片方の手を上げて、親指でグッドのポーズをしながら「リュウちゃんは元気です」とおっしゃった。嬉しそうな表情だった。それは、ユニアルさんにとって幸せのサインだった（幸運な印だった）「ありがとうございます田中先生。」ユニアルさんはお礼を言い、リュウちゃんがいる ICU へ向かって走っていた。
11. ユニアルさんはリュウちゃんのそばに来ると思わず涙が流れた。子供の体にたくさんチューブが繋がれ、点滴も何本か繋がれている。口に呼吸器が当てられ、お腹周りが包帯で巻かれていた。『私の娘、あなたの肝臓は本当に換わったのか？本当に体の中であなたのお父さんの肝臓が一生懸命に適応しようとしているのか？私の娘、あなたは本当に大丈夫なの？』
12. その時ユニアルさんは、リュウちゃんの「エエエ、」という泣き声でびっくりした。リュウちゃんの目が大きく開いた。普通なら手術したばかりの患者はまだ意識が戻らないがリュウちゃんは違った。まるで早めにお母さんに「私は大丈夫だよ」と伝えられたようだ。
13. ユニアルさんは神様に感謝の言葉を言いながら、ゆっくりとリュウちゃんの小さな額をキスした。リュウちゃんが抱っこして欲しいと声を出して訴えた。リュウちゃんは強い子だ、術後すぐに目が覚めて、抱っこまで求めた。きっとこの子の峠を越えたんだと思った。そうすると急にリオンさんのことを思い出して、また心配になった。

医師たちと看護師たちは、ユニアルさんがリオンさんの状況をととても不安に思っているのがよく分かっていたので、ユニアルさんを手術室が見える部屋へ連れていった。そこでユニアルさんはリオンさんの手術が無事に終わるようにずっとお祈りしていた。2時間後、医者たちと看護師たちが手術室から出てきた。難しい手術だったので、長い時間が掛かったが、皆疲れている顔を見せなかった。「さすが、プロだよな！」

しばらくしてから、リオンさんと面会ができたが、彼はリュウちゃんのように強くなって、かなり弱っていた。多分肝臓の一部が切り取られたからだ。

「お父さん、頑張ってね！リュウちゃんは大丈夫だよ！お父さんも元気になってリュウちゃんを見たいでしょう！」ユニアルさんはリオンさんを励まし、その夜はICUでリュウちゃんとリオンさんに付き添った。

ユニアルさんは優秀な看護師だ、リュウちゃんとリオンさんの看病でICUを出たり入ったりしていた。リュウちゃんとリオンさんの世話で毎日忙しかったが、疲れは全く感じなかった。二人が回復に向けて、頑張っている様子を見ると却って幸せを感じていた。時間に余裕が出来るとうスリム教のコーランも忘れずに読んでいた。

ICUで三日間の治療が終わり、リオンさんは一般の病室に戻った。リュウちゃんはICUで五日間の治療が終わると一般病室ではなくて個室に移された。誰でも皆、リュウちゃんの部屋に入る時は、リュウちゃんのために必ず消毒しなければならない。ユニアルさんは毎日二人の部屋を行ったり来たりしていた。

リュウちゃんの状態は段々良くなったが、リオンさんはまだ腹部の右側のスタントが外れなかった。ユニアルさんはスタントをいつ外すのか、どうしてまだ外さないのか疑問だったが、自分は素人なので田中先生の判断に任せた方がいいと思っていた。

病院の2015年のお正月のお祝いに参加した。簡単なお祝いだがとても盛り上がった。普段はムスリム教のリオンさんとユニアルさんにとっては、大晦日をお祝いする習慣がない。特にリュウちゃんが病気にかかっている今は、年が変わっても気にする事はなかったが、お祝いする人たちの気持ちを尊重し、この小さな一家も皆と一緒に大晦日を楽しく過ごした。

1ヶ月後、リュウちゃんが元気になったと診断されて子どもセンターに移された。外来受診のため、一週間後病院でリュウちゃんの経過観察する時に、リオンさんのスタントを外すことも決まった。

リオンさんのスタントを外した二日後、急に体調が悪くなり、強い寒気、高熱が出て、目も黄色くなった。まるで昔のリュウちゃんのようなだった。

“私の主人はどうしたの、何があったの”。ユニアルさんは心の中でとても心配し、“リオンさんがリュウちゃんのために肝移植のドナーになることは愚かで無謀な行動だ。”という人々の危惧していた言葉を思い出した。翌朝、病院に戻りすぐ治療を受けた。内視鏡検査の結果、体調が悪くなった原因はリュウちゃんに肝臓の一部をあげたことではなく、リオンさん自身の胆管が元々狭窄していた事だった。生まれつきの胆管の狭窄を幸いな事に早めに発見した。そのままにしておくとも将来悪化したり、ガンなどになる可能性もあった。また、この追加治療の費用も問われなかった。リオンさんたちは、自分達は神様から何と特別な子供を授かった事か、と後になって気づいた。リュウちゃんを通して、

リオンさんとユニアルさんが学んだ事がたくさんあった。これはその中の一つだった。つまりリュウちゃんがお父さんも気づいていなかった病気を教えてあげた。今回ドナーになった事により、リオンさんも病気が悪くなる前に治療することができた。